



とうぎん ゆう

# 東山の雄

一関市立千厩中学校  
学校だより 第29号  
令和6年11月1日  
文責：菊池

## 合唱コンクール 最優秀賞3年A組 優秀賞1年C組・2年B組

10月27日(日)、たくさんの保護者、家族の方々、地域の方々にご来校いただき、紅輝祭が開催されました。開祭セレモニーでの校長挨拶で次のことをお話ししました。「合唱に意欲的に取り組めるかどうかは、合唱を行う集団への『誇り』と『所属感』によるものと私は思います。その集団の一員であることに誇りをもっている、その集団に対して、私はここにいてもいいんだと思える感覚があれば、自然と力が入るものです。どの学級も現在の学級編成になり半年ほどが経過しました。今日、それぞれの合唱を通して、一人一人が、自分の学級に、学年に、千厩中学校にどれほどの『誇り』をもち、『所属感』を感じているのかを確かめられる場として楽しみにしています。また、大人数の学級編成となった3年生の合唱を楽しみにしています。」

アナウンスされた時の返事、合唱前の各学級の円陣、指揮者に視線を集め一生懸命歌唱する姿から、一人一人の『誇り』と『所属感』を確かめられました。どの学級もどの学年も集団としてのまとまりを感じました。特に3年生は、昨年度の3学級の良さをミックスさせつつ、そこに新たな味を加え、これまでの集大成としての合唱を響かせてくれました。

一方、吹奏楽部の発表では、全生徒が拍手を送り、エネルギーを発散させ盛り上げる姿があり、全校生徒の一体感を感じました。

各学級、各学年、千厩中学校がまた一步成長した紅輝祭となりました。(卒業式での全校合唱「群青」、楽しみです。)

### 【保護者の皆様へ】

紅輝祭について、多くのご感想やご意見をいただきありがとうございました。合唱や吹奏楽の演奏に高い評価をいただき、成功裏に終えられたとっております。一方、「開催期日」「当日の日程」「座席」について改善点をご指摘いただきました。これらについては、行事検討委員会並びに職員会議で検討し、来年度の実施に生かしていきたいと思っております。

# 美輝共鳴

~Power of smile~



【1学年合唱】「絆」



学年・組	審査員評
1年A組 「大切なもの」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一生懸命さが伝わってくるがやや控えめな演奏でした。</li> <li>・強弱などもっとできそうです。</li> <li>・ユニゾンからハーモニーに分かれたときの音程がしっかりと良い。」</li> </ul>
1年B組 「永遠のキャンパス」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素直な声の演奏でした。</li> <li>・フレーズ感を感じられるので、練習時間があればもっと良くなると思います。</li> <li>・まず、声を出す（間違っても良いので）。</li> </ul>
1年C組 「マイバラード」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さわやかなハーモニーでした。</li> <li>・最後のハーモニーが決まったね。もう少し長くても良かったかな。</li> <li>・サビの部分のリズムをもっと出すとgood!</li> </ul>

※1年生に共通するのは、もう少し笑顔で歌うことが必要だとのことです。「表情筋と声はリンクしていません」。最後の講評を思い出し、心がけていきましょう。

【2学年合唱】「輝くために」



学年・組	審査員評
2年A組 「時の旅人」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・力強い演奏です。</li> <li>・<b>E</b>男子の「いーまー」good。「きみ㊦ー」もう少し長く。</li> <li>・<b>G</b>からのハーモニーが時々バランスが崩れるのが少し残念!</li> </ul>
2年B組 「With You Smile」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さわやかで力強い演奏です。</li> <li>・<b>B</b>男子のメロディーがしっかり出て、かけ合いのハーモニーに好感がもてます。</li> <li>・最後のハーモニーがんばりましたね。</li> </ul>

<p>2年C組 「この地球のどこかで」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やさしい感じのハーモニーでした。やや控えめだったかな。</li> <li>・<b>A</b>と<b>C</b>では、歌い方を変えたほうがいいですね。</li> <li>・ユニゾン作曲者が伝えたいところなので、意識して。</li> </ul>
-----------------------------	--

【3学年合唱】「翔る川よ」



学年・組	審査員評
<p>3年A組 「虹」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すがすがしいハーモニーでした。</li> <li>・ていねいな曲作りでgood。</li> <li>・出だしのハーモニーgood。</li> <li>・<b>F</b>の男子のメロディー、もう少し抑えても。</li> <li>・サビの前の＜がもっと聞きたかった。</li> <li>・ソロはバッチリ自信をもって歌っていて好感度UP。</li> </ul> <p>○素敵な演奏を聴かせてくれてありがとう。</p>
<p>3年B組 「結-ゆい-」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安定した澄み切ったハーモニー！</li> <li>・とても丁寧に歌っている。</li> <li>・最後まで好感のもてる歌い方。</li> <li>・もっと練習すれば、声量（ひびき）がでてくると思います。</li> </ul> <p>○素敵なコーラスを聴かせてくれてありがとう。</p>



「ともに生きていく」

一関市立千厩中学校3年  
秋尾 健太

中学2年生のときだった。私は社会体験学習で老人ホームを訪れた。老人ホームには、身体が不自由な方、目が見えない方など、生活に困難を抱える方を含む、お年寄りの方がたくさんいた。私は5日間の社会体験学習で、色々な経験をした。例えば、玄関や廊下の掃除、ベッドのシーツ交換、食事の配膳などだ。はじめは、少し面倒くささを感じながら、施設の方に言われたことにひたすら取り組んだ。そんなときだった。

「いつもありがとうね。」

そばにいるおばあちゃんから、こんな言葉をかけられた。その言葉に、私は一瞬戸惑ってしまった。ここにきてから何も特別なことはしていない。ただ、言われたとおり、やることをやっていただけだった。なぜ自分の行いに感謝されているのか分からなかったが、疎かな気持ちで活動に臨んでいたことを少し後悔した。

日常生活のお手伝いの他にも、風船を使った遊びをした。私たち中学生と交流しているとき、お年寄りの方は笑顔であふれていて、生き生きとしていた。よく考えてみれば、普段の施設での生活では、子どもや若い人と関わる機会は少ないと思った。お年寄りの方の笑顔を見て、私たちがこうして積極的に関わることで、お年寄りの方に元気を与えることができるということを実感した。

私は家に帰ってから、お年寄りの方の立場になって日々の生活についてさらに深く考えてみた。思えば、私たちが当たり前に行っていることでも、お年寄りの方にとっては困難を伴うものだという事に気付いた。私が面倒くささを感じながら消極的に手伝っていたことが、お年寄りの方にとっては大事な意味を持っていたのだ。私たちの小さな支えが、お年寄りの方にとっては大きなものであることを学んだ。

ある日ニュースを見ていて、日本の超高齢化問題が深刻化していることを知った。現在の日本は、総人口に占める六十五歳以上の人口の割合が、二十九・一パーセントであり、二〇四〇年には三十五パーセント以上になると予測されている。また、高齢化の深刻化によって、医療・福祉の人材不足や経済活動の鈍化、社会福祉制度の財源不足など、私たちの日常生活や暮らしにも大きな影響を及ぼしていることが分かった。

私はこれまで、お年寄りの方と深く関わる機会が少なかった。身近にあまりお年寄りの方がいない環境で育ってきたため、日常生活の中で、お年寄りの方の暮らしについて考えたことはほとんどなかった。だが、社会体験学習でお年寄りの方と交流したことや、高齢化問題が深刻化しているというニュースを見たことで、今の私にできることはなんだろうかと考えるようになった。

私の祖父母は少し離れたところに二人で暮らしていて、普段はなかなか会う機会がない。今はまだ祖父母も元気で健康なので、日々の暮らしに大きな不安はないが、いざ何か助けが必要になったり、介護施設に入ると決まったりしたら、きっとショックを受けるだろう。これまであまり祖父母のことについて考えることはなかったが、あとになって後悔しないために、日々の関わり方を変えていきたいと思った。たとえば、これまでより会う機会を多くして、学校のことや将来のことなどをたくさん話したい。また、祖父母は農業をしているので、たまにはその手伝いをしてあげたい。直接会うことができなくても、適度に連絡を取ることで、身近な存在に感じてもらえるだろう。

これからますます日本の高齢化は進んでいく。一人ひとりにできることには限りがあり、高齢化問題を解決することは難しいかもしれない。しかし、身近な人との関わり方の意識を変えていくことはできる。これまでの経験を活かして、お年寄りの方の気持ちに寄り添うことや、お年寄りの方の立場で物事を考えて行動することを大切にしていきたい。

それが、ともに生きていくことができる社会の実現に繋がるのではないだろうか。